

「コロナ禍の地域包括ケアとロボット」

令和3年1月29日 武内和久

コロナを地域包括ケアの「底力」を高める好機へ

「ロボット」の再定義の可能性へ

コロナは多くのチャレンジをもたらした

ディスタンスがフレイル招く（フレイル対策に注力）

通いの場、集いの場がストップ（感染防護策でサービス止めない）

持病の治療が中断（オンライン、電話の活用、訪問間隔開けて中断しない）

入院、入居の「孤独」（コロナ時代の意思決定とコミュニケーション）

在宅ケアへの傾斜（在宅ニーズに応えるリソースづくり）

家族が感染したときの代替策（濃厚接触者へのケアのシミュレーション）

アフターコロナ時代の「ロボット」の意味合いを再考する

「トレーサビリティ」は分かれ目：ユートピアかディストピアか

「生活」自体の概念が変わる中で

「デジタル労働者」

真の意味で「楽しい」介護か

介護を「プロフェッショナル」にするか

ケアとケアラーを「解放」するためのロボット

「地域」と「ロボット」

「ロボット」を**地域包括**ケアに**位置**付けていくための**視点**

- ① 健康づくりの意識革命
- ② 地域の力の総動員
- ③ 「らしさ」の再発見と認め合い
- ④ 寂しさを癒すつながり資産
- ⑤ 「うちのやり方」を大事に
- ⑥ 死を考え、死と向き合う
- ⑦ 「小さなところ」から紡ぎ出す

「ケア民主主義」のチャンス

ケアが「資源」であることが分かった

「エッセンシャルワーカー」という言葉

格差はコロナに弱いこと

孤独と自分の人生

「生産性」概念、GDP 指標の限界

コロナの先の「人間」像、「ロボット」像

「風の時代」

「らしさ」「わがまま」

「共感」ベースの関係性

幸せの再発明

あたらしい「密」を愉しむ人間



武内 和久(たけうち かずひさ)

1971年4月19日生まれ(49歳)

福岡市(姪浜)出身 久留米大学附設中・高、東京大学法学部卒

1994-2015 厚生労働省

医政局、老健局、社会・援護局、年金局、大臣官房等にて社会保障全般

[医療/介護/福祉/子育て/年金/雇用分野]の政策の企画立案を20年余担う

2001-2005 米国シンクタンクEBRI(在ワシントンDC)客員研究員

2005-2008 在英国日本国大使館(在ロンドン) 一等書記官

2011-2013 マッキンゼー・アンド・カンパニー

ヘルスケア分野の事業開発・マーケティング戦略(製薬業界、自治体等)

マッキンゼーMBAコース修了

2013-2015 厚生労働省 福祉人材確保対策室長(退官)

2015-2017 アクセンチュア(株)ヘルスケア部門統括ディレクター

デジタル・ヘルスケア部門事業の創造・推進

2017-2018 マッキンゼー&カンパニー シニア・アドバイザー

東京大学非常勤講師 福岡市政策参与(『福岡100』を策定)

北九州市アドバイザー(先進的ロボット介護等)

厚生労働省参与、『保健医療2035』策定委員

2018 九州朝日放送(KBC)報道情報番組『シリタカ!』『アサデス。』

レギュラーコメンテーター

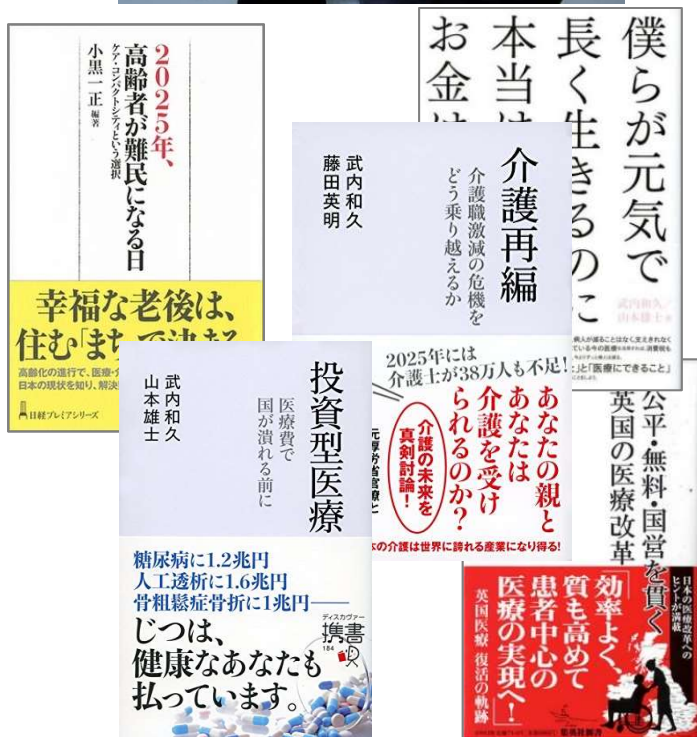
現在 ONE・福岡株式会社代表取締役、MEDIVAアドバイザー

企業・医療法人顧問多数、慶應大学医学部講師。厚生労働省参与

[趣味] 味噌汁づくり、握り寿司づくり、筋トレ、4歳の娘と遊ぶ、

福岡ソフトバンクホークスの応援、高校野球の研究

[座右の銘]「批判を恐れることは成功を恐れることだ」「狂い給え」



公的関係の主な経歴

- 厚生労働省 医政局政策調整員(2010年)
- 厚生労働省参与(2016年1月～)
- 厚生労働省 保健医療2035策定懇談会委員
- 厚生労働省 保健医療分野におけるICT活用推進懇談会、
新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方
ビジョン検討会(厚生労働省参与として参画)
- 福岡市政策参与(2016年～)、福岡市先進都市戦略策定
会議に参画
- 北九州市政策アドバイザー(2016年～)(先進的介護担当)
- 東京大学医学部講師(非常勤)(2017年)
- 慶應義塾大学医学部講師(非常勤)(2019年)
- 東京大学公共政策大学院PBL講義担当講師(2019年)